とうきょう すくわくプログラム活動報告書

別紙2

施設名	恵・ＹＯＵ保育園
施設所在地	足立区東綾瀬１－９－４　プラザ白うめ
法人名	株式会社恵・ＹＯＵ

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

身近な物の重さ比べ（3・4・5歳児クラス）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
なんで葉っぱは浮くのに石は水の中に沈むのかという戸外遊び中の子どもの疑問から出発し、色々な物の重さを量ってみようということでテーマを決定する。

２．活動スケジュール

6月　保育室にSTEMコーナー設置。
7月　活動中に子どもから不思議に感じたことを聞く。
8月　身近なものやSTEMコーナーから測りたいものを選ぶ。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・テーブル
・STEM実験セット「重さ」

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・はかりの使い方を知る。
・重さの違いを見て理解し、興味を広げる。
・保育者や友だちと発見や気付きを共有し、楽しさや不思議を感じる。
・興味から自発的に視野を広げ、量りたいものを自分で見つけて知ろうとする事を楽しむ。
・知った事、感じた事、経験した事を発表したり、身近な友だちや家族に話す。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
保育者がSTEMコーナーからはかりや天然石を子どもが見える場所に設定し、自由に遊べるように提供すると、興味を持った子同士で遊び始めた。気になる天然石やビー玉をはかりに乗せながら保育者に沈んだら重い、浮いたら軽いことを教えてもらい、さらに関心を広げて「これはどっちが重いかな？」と遊びながら物の重さを楽しんでいた。





５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

はかりを子どもたちの生活の中で自然に導入したことで、興味のある子が自ら挑戦してやってみようと思う気持ちに繋げることができた。天然石を使ったことで、周りで見ていた子も綺麗なものに興味を示しながら参加していて、様々な興味に寄り添いながらみんなで楽しむ事ができた。重さということを浮き沈みの動きに連携しながら学ぶことができて、子どもたちにとって良い経験になったと感じる。また、これはどうかな？と水など他の素材にも興味が広がり、実験しながら自分たちで疑問に思ったことを実際にやってみるという行動に繋がり、主体的な学びに繋がる遊びとなっていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

別紙2

施設名	恵・ＹＯＵ保育園
施設所在地	足立区東綾瀬１－９－４　プラザ白うめ
法人名	株式会社恵・ＹＯＵ

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

色水（4・5歳児クラス）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
色水に興味を持ち、緑やオレンジなど色の作り方を理解してきているため、実際に色の濃さや比率を変えるとどの様に変化するか興味をさらに発展させていく為。

２．活動スケジュール

12月　色水遊び
1月　色水実験

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・テーブル
・STEM実験セット「水」

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・色の作り方を知る。
・道具の使い方を理解する。
・保育者や友だちと発見や気付きを共有し、楽しさや不思議を感じる。
・濃い色や薄い色など比率によって色が変わる不思議さを感じる。
・知った事、感じた事、経験した事を発表したり、身近な友だちや家族に話す。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
緑色でも黄緑や深緑など色の違いを理解しながら、「もっと濃くしたいな」と作りたい色へ近づけようと工夫したり、思った色と違う色が出来上がったことに疑問を持ち、「なんでだろう？」と試行錯誤する姿も見られ、「これ入れてみたら」「もう一回やってみよう」など子ども同士で意見を言い合う姿も見られた。道具の使い方以外では、保育者の出番はあまりなく、子ども同士で役割分担しながら実験を行うことが出来ていた。





5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

年度後半の時期なのもあり、子ども同士で役割分担しながら実験を進め、わからないところは保育者に聞くなど主体的に活動する姿が見られた。
色の作り方は分かるが、本当にあってるかな？と正解を探そうとする姿もあったので、思い通りにいかない結果が出る事も含めた実験の楽しさを味わえるようにしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

別紙2

施設名	恵・ＹＯＵ保育園
施設所在地	足立区東綾瀬１－９－４　プラザ白うめ
法人名	株式会社恵・ＹＯＵ

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

野菜を育てるところから食育へ（3・4・5歳児クラス）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

普段食べている野菜を、実際に育てるところから行い、育てる大変さや収穫の喜びを感じながら、収穫出来たものを一緒に食べるという食育の一環として行う。

２．活動スケジュール

5月植える野菜を選定。（トマト、ナス、きゅうり、バジル、オレンジ）

6月チーム分けをして、各チームの担当野菜を決めて、土をほぐす所から苗植えまで行う。

6・7月野菜の背が伸び、花が咲くなど成長を観察しながら、保護者にも日記等で情報を発信する。

7・8月各クラスで収穫を行い、調理して食べる。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

苗、種、スコップ、軍手、ジョウロ、土運び用一輪車、支柱、ビニール、植物ネット

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・土作りから経験し、野菜作りに必要な工程を知る。
・野菜の成長過程を知り、苗を実際に触って植物に親しむ。
・戸外活動の中で野菜の観察をし、成長に気付く。
・新鮮な野菜を収穫し、喜んだり達成感を味わう。
・収穫した野菜を使った料理を食べ、食への関心を広げる。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・「土が冷たい！」「これが土の匂いなんだ」「ふわふわしてきた」「沢山混ぜるぞ！」と五感を働かせ、思いや意欲を口にしながら活動していた。
・スコップで優しく土を掘り、愛情を持ちながら苗を植えていた。「ナスが紫だから茎も紫なのかな？」と発見を楽しみながら不思議を感じていた。
・背丈が伸びてきた、花が咲いた、等保育者と発見を共感しながら喜んでいた。
・みんなで嬉しそうに収穫をし、食べるのを楽しみにしていた。





５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

日頃から調理士さんとの交流や食事、食育で野菜に興味を示してたので、意欲的に活動する姿が見られた。砂以外の土に触れ合うことで、苦手に感じる子、関心を持つ子、挑戦しようと子等、一人ひとりが思いながら野菜作りに携わることができていて、さらに野菜への興味に繋がったように感じる。育てた野菜を収穫できた達成感を感じながらみんなで味わうことができて、次は何を育てようかな？と期待に繋げることができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

別紙2

施設名	恵・ＹＯＵ保育園
施設所在地	足立区東綾瀬１－９－４　プラザ白うめ
法人名	株式会社恵・ＹＯＵ

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

季節の花に触れ、成長を感じる。（3.4.5歳）
「花や野菜の球根、種、苗植え」

＜テーマの設定理由＞

一年で季節に合った花や野菜を植えたり育てた経験から、植物は種だけではなく球根から成長する植物があると図鑑で発見し、育ててみたいという子どもたちの意欲から実現に繋げていった。

２．活動スケジュール

9月　　図鑑で花に興味を持つ。球根と種の存在に気づき、育ててみたいと意欲を発信していた。育ててみたい球根・種を聞いて、購入した。
10月　6月に行った土づくりを振り返りながらチームで土を作る。
11月　興味を持っている子で球根・種植えをする。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

チューリップ球根、キンセンカの種、コスモスの種、かぶ、ほうれん草、ちんげん菜、ブロッコリー、大根、スコップ、軍手、ジョウロ、土運び用一輪車

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・花や野菜を植えたり、図鑑を通じて植物へ関心を持つ。
・土の感触を楽しみながら植物に親しみを持つ。
・水をあげて達成感を味わう。成長へ期待を持つ。
・成長過程の違いに気づき、友だちと成長を喜ぶ。
・季節ならではの花や野菜を知り、花の綺麗さを感じる。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

球根を手に取り、「玉ねぎみたい」「これがチューリップになるの？」と不思議を感じながら観察を楽しんでいた。
植え方や保育者の見本を見ると、自分もそっと植えてあげようと、植物に優しい気持ちを持ちながら種植えに挑んでいた。
開花を楽しみに水をあげていた。







5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

花への興味から、実際に植えられることを期待を持って喜んで参加していた。球根や種、苗を手に取ると身近な物に例えたり、優しく扱おうと植物に親しみを持ちながら大切に扱っていて、自然へ優しい気持ちを持つ姿に繋がった。植え方を聞いたり、前回植えた経験を思い出したりしながら積極的に植えようとしていて、手が汚れることや土に触れる事に自然と慣れていた。「何色の花が咲くのかな？」「いつ芽が出てくるのかな？」と成長に期待を持って活動することが出来た。今後も観察や水やりを通じて、子どもたちの興味を尊重していけるようにしていく。